

くま の ふで  
熊野の筆づくり



文と絵 くまのの絵本作り隊



くまのちょう ふで ぜんこくてき ゆうめい  
熊野町の筆づくりは、全国的に有名です。

くまのちょう ふで ひつよう  
しかし、熊野町には、筆づくりに必要な

どうぶつ け たけ  
動物の毛や竹がありません。

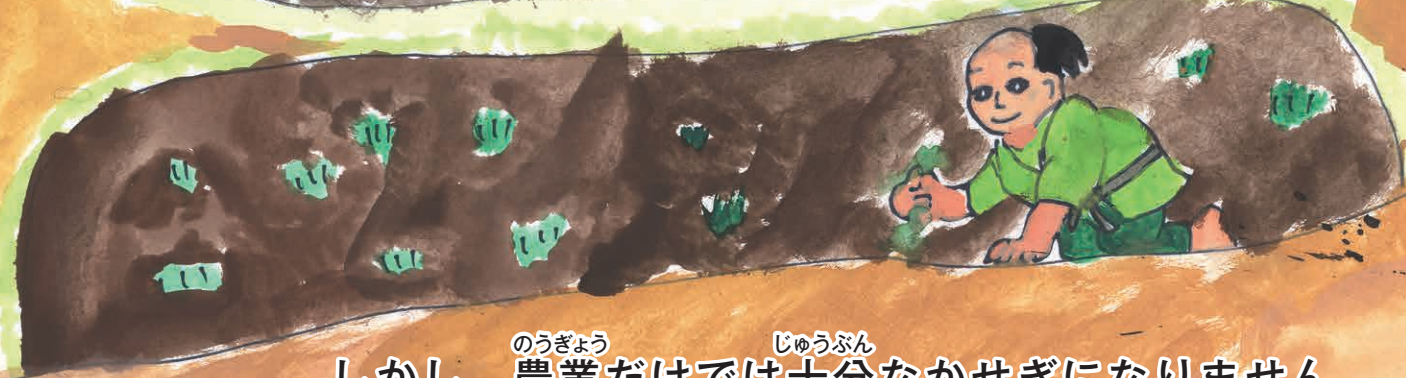


くまのちょう ふで  
それなのに、どうして、熊野町の筆づくりは  
ゆうめい  
有名になったのでしょうか。



むかしむかし、

くまのひと  
熊野の人たちは、のうぎょう農業くをして暮らしていました。



のうぎょうしかし、じゅうぶん農業だけでは十分なかせぎになりません。



そこで、<sup>のうぎょう</sup>農業がひまな<sup>とき</sup>時に  
<sup>いま</sup>今の<sup>ならけん</sup>奈良県や<sup>わかやまけん</sup>和歌山県などに  
<sup>で</sup>出かせぎ<sup>い</sup>に行く<sup>ひと</sup>人がいました。





かせいだお<sup>かね</sup>金で、<sup>なら</sup>奈良や<sup>おおさか</sup>大阪、  
<sup>いま</sup>今の<sup>ひょうごけん</sup>兵庫県の<sup>ありま</sup>有馬の<sup>ふで</sup>筆や<sup>すみ</sup>墨を買って  
それを<sup>う</sup>売りながら、<sup>なんにち</sup>何日も<sup>ある</sup>歩いて  
<sup>くまの</sup>熊野に<sup>かえ</sup>帰ってきました。



これが、<sup>くまの</sup>熊野と<sup>ふで</sup>筆の<sup>はじ</sup>つながりの始まりです。



で 出かせぎに 行った 人の なかに、

さ さ き た め じ ひと  
佐々木為次という人がいました。

た め じ ひと だ せ き  
為次さんは、出かせぎ先で

ふ で き ょ う み  
筆に興味をもちました。

ふ で  
そこで、筆づくりが

す す あ り ま い  
進んでいた有馬に行き、

ふ で い っ し ょ う け ん め い ま な  
筆づくりを一生懸命に学びました。





ねんかんふで まな ささきためじ  
4年間筆づくりを学んで、佐々木為次さんは  
くまのかえ  
熊野に帰ってきました。

はたけしごと とき  
「畑仕事がひまな時に

ふで つく う  
筆を作って売れば、かせぎになるのう。

ちょっとは暮らしも楽になろうけえ、

みんなに筆の作り方を伝えられたらええのう。」

ささきためじ くまのひと  
佐々木為次さんは熊野の人たちに

ふで おし かんが  
筆づくりを教えたいと考えました。





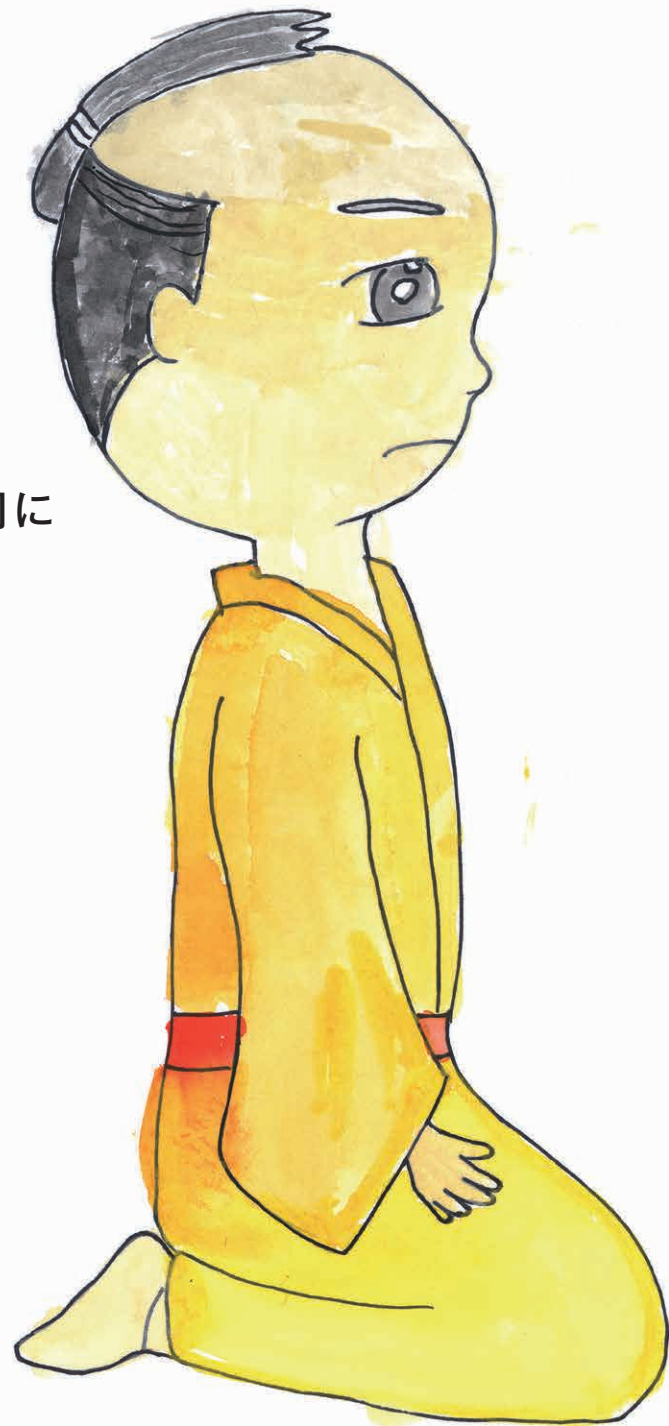
また、<sup>いのうえ じ へい</sup>井上治平<sup>ひと</sup>という人も

<sup>ふで</sup>筆づくり<sup>まな</sup>を<sup>おも</sup>学びたいと思い、

<sup>ひろしまはん</sup>広島藩<sup>しごと</sup>で<sup>ふでし</sup>仕事<sup>に</sup>をしていた筆司に

<sup>ふで</sup>筆づくり<sup>ほうほう</sup>の方法を

<sup>おし</sup>教えてもらいました。





いのうえ じへい  
井上治平さんも、

さ さ き た め じ お な  
佐々木為次さんと同じように

とてもやさしい人ひとでした。





おな おとまるつね た ひと  
同じころ、乙丸常太という人は、

ためじ ありま ふで まな  
「為次さんが有馬で筆づくりを学んできた」

はなし き おも  
という話を聞いて思いました。

ためじ  
「わしも、為次さんみたいに

ふで なる  
筆づくりを習うてきて、

くまの ひと おし  
熊野の人に教えちゃげたいのう。」





そこで、乙丸常太さんおとまるつね たも有馬ありまに行き、

筆づくりふでの技術ぎじゆつを身みに付けて

熊野くまのに帰かえってきました。







さ さ き た め じ  
佐々木為次さんも

い の う え じ へ い  
井上治平さんも

お と ま る つ ね た  
乙丸常太さんも

く ま の か え  
熊野に帰ってから、

た く さ ん の 人 に 筆 づ く り の  
ひと ふ で

ほう ほう お し  
方法を教えました。



<sup>ふで</sup>「筆のつくりかたをあんたにも<sup>おし</sup>教えちゃぎょう。」

<sup>むずか</sup>「難しそうだけど、わしにもできるかのう。」

「あんたなら、できるよのう。」

<sup>ふで</sup> <sup>ほうほう</sup> <sup>なら</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ほうほう</sup>  
筆づくりの方法を習った人たちも、その方法を

<sup>ほか</sup> <sup>ひと</sup> <sup>つた</sup>  
他の人にどんどん伝えていきました。

こうして、<sup>くまの</sup> <sup>ふで</sup>熊野の筆づくりは、だんだんさかんになりました。

<sup>くまの</sup> <sup>ひと</sup> <sup>どりょく</sup> <sup>くまの</sup> <sup>ふで</sup> <sup>いま</sup>  
熊野の人たちの努力によって、熊野の筆づくりは今のよう

<sup>ゆうめい</sup>  
有名になったのです。

